

令和7年度和歌山県統計グラフコンクール審査講評

令和7年度和歌山県統計グラフコンクールにおいて受賞されました皆様方、おめでとうございます。県下より各部門の合計314点（314名）の多数の作品が応募されました。

その作品を、テーマの選択、データ理解、統計グラフの表現技術、正確性、要件の充足状況、全体のまとめ方に重点をおいて審査しました。

その結果、特選5点、入選10点、佳作8点、合計23点を入賞作品として決定しました。

○第1部（小学校1・2年生の作品）

第1部の作品からは特選1点、入選1点、佳作1点が入賞しました。

「子どもパトロールたいになりたい！～まつえっこのあんぜんはぼくがまもる～」は、同じ小学校2年生のみんなと地元の警察官の方々から約1か月かけてアンケート調査しています。毎日の通学事情、警察官の方々から聞いた通学路の危険な場所などのたくさんの情報やデータをグラフ化、わかりやすく見やすくまとめています。調査内容をみんなに伝え、交通事故を無くしたいという強い気持ちが伝わる作品です。特選おめでとうございます。

「ワクワクドキドキ1ねんせい しょうがっこうの大せんばい 6ねんせいランドセルしらべ」は、同じ小学校の1年生と6年生に普段使っているランドセルについてアンケートを行い、調査した作品です。ランドセルの色や選び方など、選んだ基準が学年によってちがうところがわかりやすくまとめられています。調査結果をグラフ化し、グラフを効果的に使い、レイアウトを工夫し見やすいものとなっています。入選おめでとうございます。

「さいころをいっぱいふってみました」は、出た目の数のデータを取るためにさいころを振った試行回数から努力がうかがえる作品となっています。自分が不思議に思ったことをきっかけにさいころを何回もふってみて、その結果をグラフ化する楽しさに気づいています。繰り返し振っていると、なかに意外な数値が現れ偶然性にも気づくことができました。佳作おめでとうございます。

○第2部（小学校3・4年生の作品）

第2部の作品からは特選1点、入選1点、佳作1点が選ばれています。

「ぼくの家が大ピンチ！！お米の消費量はどれくらい？3年生ごはんアンケート調査」は、注目度が高いコメ問題に関して自分の家でどれくらい消費しているのだろうと興味をもち、2か月間のお米の消費量のデータを収集しています。そのデータをグラフ化し、分析を行っています。そして、同じ学年の子供たちにごはんに関して疑問に思ったことのアンケートを行っています。グラフを含め、全体的に見やすく仕上がっていて、内容も分かりやすいです。特選おめでとうございます。

「すごいぞ！和歌山市産新しょうが」は、地元で作られている新しょうがをもっと知ってほしいというきっかけから、新しょうがの魅力を伝えるためのデータ収集を行っています。地元感があり、地元を大切にしている気持ちが伝わる作品です。グラフの見せ方にも工夫があり、グラフや表を効果的に使っています。レイアウトも工夫されてとても見やすく仕上がっていて、内容も分かりやすいです。入選おめでとうございます。

「きゅう食の食ざい調べ」は、食材の使用頻度を献立表からデータ収集を行っています。それを整理し、グラフ化しています。かなり長期にわたりデータの集計を行った努力が伺えます。また、栄養素で分けグラフ化しているところは学校の食育の取組からのつながりを感じます。食品ロスの問題や給食のレシピを考えてみるなど、まとめの工夫をしてみるとさらに良いですね。佳作おめでとうございます。

○第3部（小学校5・6年生の部の作品）

第3部の作品からは特選1点、入選1点、佳作1点が入賞しました。

「近畿の気象大調査～気象データから分かる近畿の特徴～」は、グラフや表、分析した内容のまとめ等のレイアウトが非常によく整理されています。和歌山に住んでいて感じる気候の特徴を気象データを基に、近畿の他の府県と比較することで分析しています。各データを適切なグラフで表し、その結果の分析を行い、最後に今回の調査から一番住むのにおすすめの地域を考えています。さらに気象現象について調べるきっかけにつながれば素晴らしいですね。特選おめでとうございます。

「一体どれだけ暑くなってるの！？和歌山のリアルな気温 北海道より涼しくて沖縄より暑い！？」は、北海道、和歌山、那覇の3つの地域の過去の気温を調べ比較しています。近年温暖化で最高気温が上昇していることや自分の予想していた結果とは違う結果となったことが記されています。また、思っていた以上に地球温暖化の進行を実感したようです。惜しいところとしては、8月の最高気温、最低気温の表示が入れ替わってしまったところです。グラフのタイトル表示を慎重にするとより完成度の高い作品になるでしょう。入選おめでとうございます。

「クマと人が共に生きるには」は、今年よく目にするクマによる被害増加のニュースに着目しています。人もクマも傷つかないようにならないかと考え、その対策を考えた作品です。クマの被害件数の推移や被害地域の割合、エサとなるブナの結実状況を調査し、効果的にグラフを使い、説明しています。おわりに書かれていることが、自分なりの当初の疑問の解決につながればさらに素晴らしい作品になると思います。佳作おめでとうございます。

○第4部（中学生の作品）

第4部の作品の中からは、特選1点、入選5点、佳作5点の合計11点が入賞しました。

「若者はテレビ離れしている!？」は、テレビ離れがささやかれている若者に対し、本当にそうなのか、複数のデータを引用し、そこから何が言えるのか簡潔にまとめることができます。予想とは違う結果が分かり、若者が SNS よりもテレビが信用度の高いメディアであると感じていることが示されています。また若者にとって情報源は SNS だが、テレビを BGM のように視聴していることにも触れています。調査内容がとても興味深い作品です。特選おめでとうございます。

「あなたは大丈夫?リチウムイオン電池関連火災に注意!!」は、低価格、便利な製品として普及しているリチウムイオン電池搭載製品の出火事故に注目した作品です。出火の件数、製品内訳、出火要因別状況を調査、そして、この問題をどれだけ皆さんが認知しているのかにも触れています。また、「事故発生件数と気温」の関係など広く認識されていないと思われるグラフがあり興味深かったです。入選おめでとうございます。

「さくら猫は世界を変える!？」は、社会問題になっている猫の殺処分問題について調査、検証をおこなっています。まずは野良猫について問題提起しています。調査した数値を効果的にグラフ化し、それぞれコメントを付けて内容を分かりやすくしています。最後にさくら猫を知ってもらうことでその重要性を訴えています。猫愛だけでなくみんなが幸せに暮らすために、優しさを感じる作品です。入選おめでとうございます。

「梅」は、私達の県の名産品である梅干しについて、収穫量、消費量に関する数値をグラフ化し、減少原因を分析するほか、実際に自分の学校でもアンケートを行い、「梅干し離れ」に焦点を当て検証しています。調査内容を表すグラフを効果的に使い、見やすい作品となっています。様々な視点から考察を行い、まとめをしていて、説得力があります。地元愛の感じる作品です。入選おめでとうございます。

「学生の日」は、実際に自分の学校でアンケートを実施しています。集めたデータを効果的にグラフ化し、各グラフごとに分析を行い、わかりやすくまとめています。配色やレイアウトを考え、矢印を使って問題の流れを分かりやすくしている点が特に良かったです。目が悪くなっていない人の多くが、悪くならないように何らかの努力をしているということが分かります。入選おめでとうございます。

「日本人の思考の傾向を分析してみた」は、日本人特有の性質を調査しています。ユネスコの世界市民意識調査、内閣府による価値観調査、OECD による生涯学習調査など多くのデータから、日本人の特徴を分析しています。そのデータをグラフ化、分析し、分かりやすくまとめています。最後は日本文化と西洋文化の違いに触れ、自分たちがこの先どうするべき

かということをも自分なりに考えることができます。入選おめでとうございます。

「中学生の勉強事情と見える化！課題点」は、昨年の全国学力テスト結果、自校 HP を調査、そして、実際に同じ中学校 1～3 年生にアンケートし、実態をまとめています。矢印を使い問題の流れを分かりやすくし、補足的な吹き出しなどを随所に取り入れ、すっきりとした、見やすいように配慮した作品となっています。最後にはまとめとして自分たちの課題や学校の取組を知ることで、前向きに考えることができます。佳作おめでとうございます。

「『ゼロ』への道のり」は、犬猫の殺処分やパピーミルの問題について調査しています。自校生徒へのアンケート結果と環境省調査結果をバランスよく取り入れています。社会問題になっている犬・猫の殺処分について様々なデータを集め効果的にグラフ化し、自分たちの認識不足を訴えています。グラフのデザイン、レイアウトや配色の工夫を行い、とても見やすい作品となっています。佳作おめでとうございます。

「どうする？人口減少問題」は、橋本市の人口の現状を調査し、自校生徒を対象としたアンケートを実際に行っています。その結果を整理し、グラフ化しています。また、それぞれのグラフについて分析を行い、わかりやすくまとめています。橋本市の人口の推移や橋本市の魅力に迫ることで、人口減少の原因や今後の対策について考えることができます。佳作おめでとうございます。

「高校で部活に入る？入らない？」は、自分が知りたいことや同世代が興味をもっていると考えられることを調査しています。調査内容それぞれのグラフについて、分析を行って、それが分かりやすいです。これから部活動加入を考えているみなさんに向けて参考になるのではないのでしょうか。グラフの数値の表記方法に工夫があるとさらに良かったと思いました。佳作おめでとうございます。

「神キャラクター～異性の“好き”をつめこんだ！！男性 ver. ～」は、推しのキャラクター男性 ver. について調査しています。テーマに独自性がある一方で、データの引用元に偏りがあるのではないかと考えています。調査内容を効果的にグラフ化し、分析を行います。好きを集めるととても良いキャラクターが作れる一方で、全ての人に愛されるキャラクターを作ることは不可能だと結論づけています。佳作おめでとうございます。

○第 5 部（小中学生のパソコン統計グラフの作品）

第 5 部の作品の中からは、特選 1 点、入選 2 点の合計 3 点が入賞しました。

「“男子は理系・女子は文系”ってホント？—文理における性差の実態—」は、自分が疑問に思ったことを素直にテーマにした作品です。必要な情報を複数集め、整理し、多様

なグラフを効果的に使っています。また、そのグラフごとに自分なりの分析があり分かりやすいです。調べた結果、問題の実態を知り、結論、感想が簡潔にまとめられていて説得力がある作品となりました。特選おめでとうございます。

「身の回りに潜む危険」は、身近に起こる事故を調査し、身の回りで気をつけるべきことを調査しています。いろいろなグラフを効果的に使い、数値の表し方、配色などが考えられとても見やすいです。また、グラフごとに分析があり説得力があります。作品中で近年家庭内の事故が年々増加傾向であることを訴えています。とても興味深い内容でした。入選おめでとうございます。

「関西の若者に関西弁使われなくなっているのは本当？」は、インターネット調べや友人へのアンケート調査を行っています。調査の結果、実際に話す言葉とインターネット上で使う言葉のちがいなどアンケートの設問についてもよく考えられていて、まとめでは噂通りではないことに気づいたところが良かったと思います。調べた言葉が一つだけでしたので、もう少し多様な関西弁について調べてみれば、さらに説得力が増したのではないかと思います。入選おめでとうございます。

以上、部門ごとの講評とさせていただきます。多数のご応募ありがとうございました。これからも、身近な問題、社会・経済・環境問題など、自分が興味・関心をもったことや問題意識をもったことについて、調査や観察などを行い、集めたデータを分類、集計グラフ化し、表現することや分析することの楽しさを体験し、作品作りに励んでください。次回も多数のご応募を期待しています。